

東アジアにおける二重のケア責任 —新しい社会的リスクの出現—

Double Responsibilities of Care in East Asia: An Emerging New Social Risk

山下順子(ブリストル大学)

相馬直子(横浜国立大学)

なお、本研究は、日本学術振興会科学研究費(基盤B)「東アジアにおける介護と育児のダブルケア負担に関するケアレジーム比較分析」(研究課題番号24310192)の助成、ならびに、横浜国立大学経済学部アジア経済社会研究センターの助成を受けており、その研究成果の一部である。

ダブルケアとは

介護と子育てを同時に行うこと



介護と子育てを総合的に考えることの必要性



介護と子育ては独立
(制度、研究、運営)

ケース紹介：YBさん

「朝8時半に長男を小学校に送り出した後、すぐに2歳の次男を連れて両親の家に行き、父親がリハビリデイに出かける準備を手伝います。ぜんぜん気がぬけません。子供は動き回るし、父親の持ち物で両手はふさがっているし。もし父親が転びそうになったら、もう頭で支えるしかない。毎日そんな感じなんです。」

ダブルケアプロジェクト

研究目的

- ダブルケアに直面している女性たちの現状を理解する
- 女性、家族、コミュニティ、そして日本と東アジアの社会政策にとって、ダブルケアがもたらすリスクを明らかにする
- ケアの社会学、およびフェミニスト社会政策への理論的貢献

ダブルケアプロジェクト

- 相馬直子：横浜国立大学准教授
- 陳国康 (Raymond K.H. CHAN), 香港市立大学教授、香港
- Dr. Dayoung SONG, 仁川大学, 韓国
- 王永慈 (Kate Yeong-Tsyr WANG), 国立台湾師範大学教授、台湾

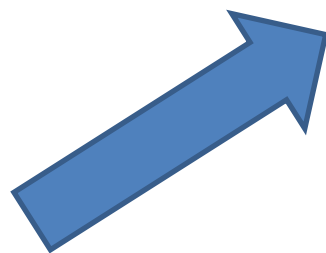
ダブルケアの台頭：背景

晩婚化

+ 晩産化

+ 少子化

+ 高齢社会



ダブルケア世帯の
増加

- 家族機能の「弱体化」
大きい親族ネットワーク→小さい／無し
- 嫁から娘へ あるいは嫁＋娘

ダブルケア研究

ダブルケアは先行研究ではあまり注目されていない

研究、制度的、運営的にも別々の対象

横断的なアプローチは少ない

ダブルケア研究

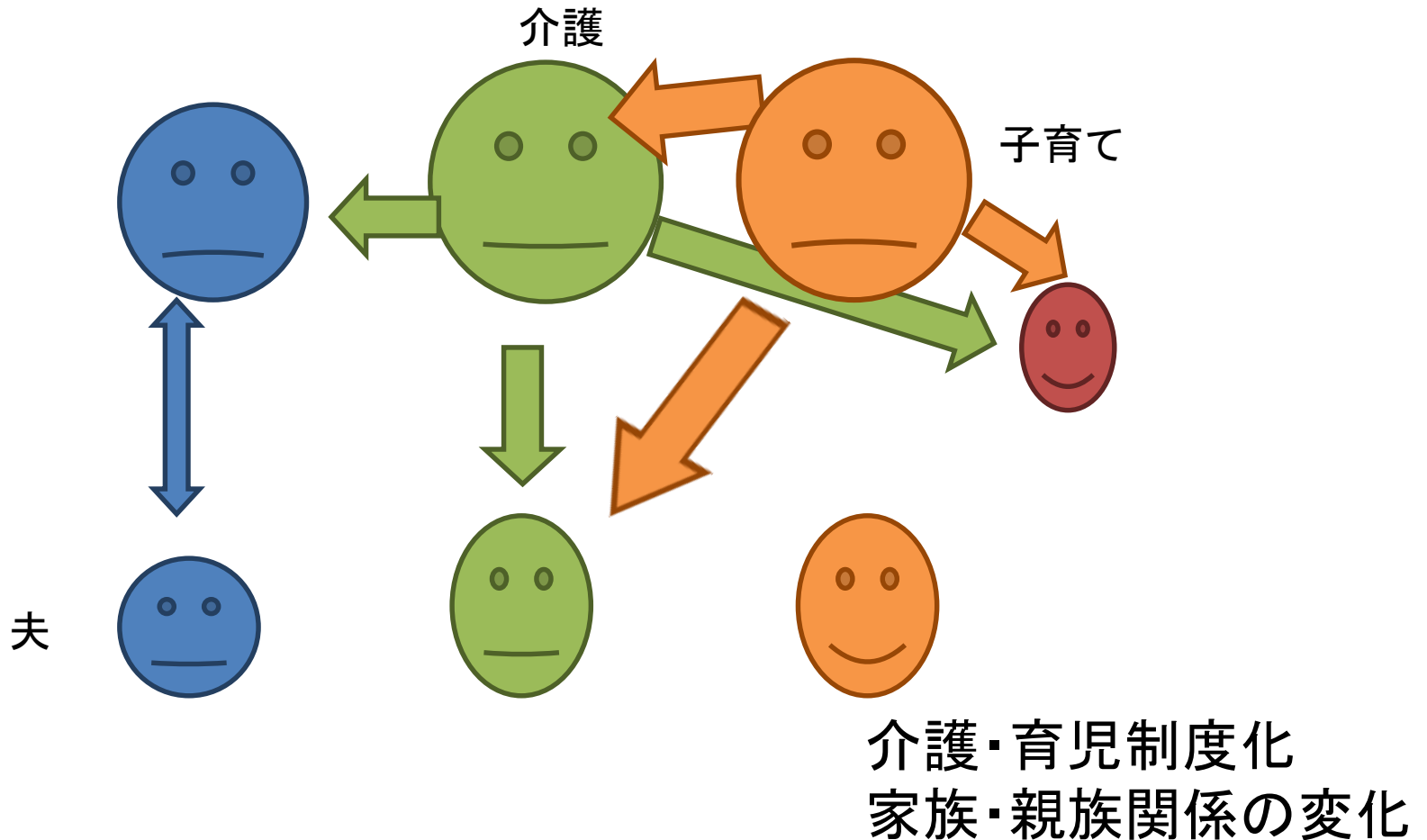
- ケア (Social care)
- フェミニスト社会政策
- 新しい社会的リスク (New Social Risk)
- 家族政策

ダブルケア研究

サンドウィッチ・ジェネレーション(Sandwich generation)

- 1) サンドウィッチ・ジェネレーションの特徴と子育てと介護を同時にするまでの過程 (Spillman and Pezzin 2000 、 Grundy and Henretta 2006, Kunemund 2006,)
- 2) 子育てと介護の交渉と同時進行の難しさ (Henretta 2006, Fingerman et al 2010)
- 3) サンドウィッチ・ジェネレーションの福祉 (Well-Being)と健康(Rubin and White-Means 2009)

ダブルケアとは何か



介護の定義

広義の意味の
介護を被調査者
に紹介

何が介護を構成
するかの主体的
な判断

介護政策によって
定義され、提供さ
れている介護サー
ビスに対する批判
的な検討

介護は、買い物代行、精神的支え、愚痴を聞く、定期的な電話での安否確認、介護サービスのマネジメントを含む

調査方法(東アジア比較)

定量調査

- 目的合理的サンプリング (purposive sampling)
- 末子が6歳以下の母親
(香港と台湾のみ親の介護もしている女性)
- 2012-2014年
- サンプル数
 - 日本: 1894
 - 韓国: 556
 - 台湾: 331
 - 香港: 591

調査方法(東アジア比較)

定性調査

- 半構造化インタビュー
- 質問紙調査の回答者の中で、インタビュー協力を同意してくれた人
- 各20から30ケース

調査方法(日本)

定量調査

- 第1ステージ:2012年9月 横浜市内の子育て支援センター3箇所で、質問紙票調査(N=559)
- 第2ステージ:2012年12月から2013年1月 横浜、静岡、京都、香川、福岡で子育てメールマガジン登録者対象に携帯調査(N=933)
- 第3ステージ:2013年11月から2014年2月 横浜、京都、香川の一時保育、学童、子育て支援センターで質問紙票調査(N=402)

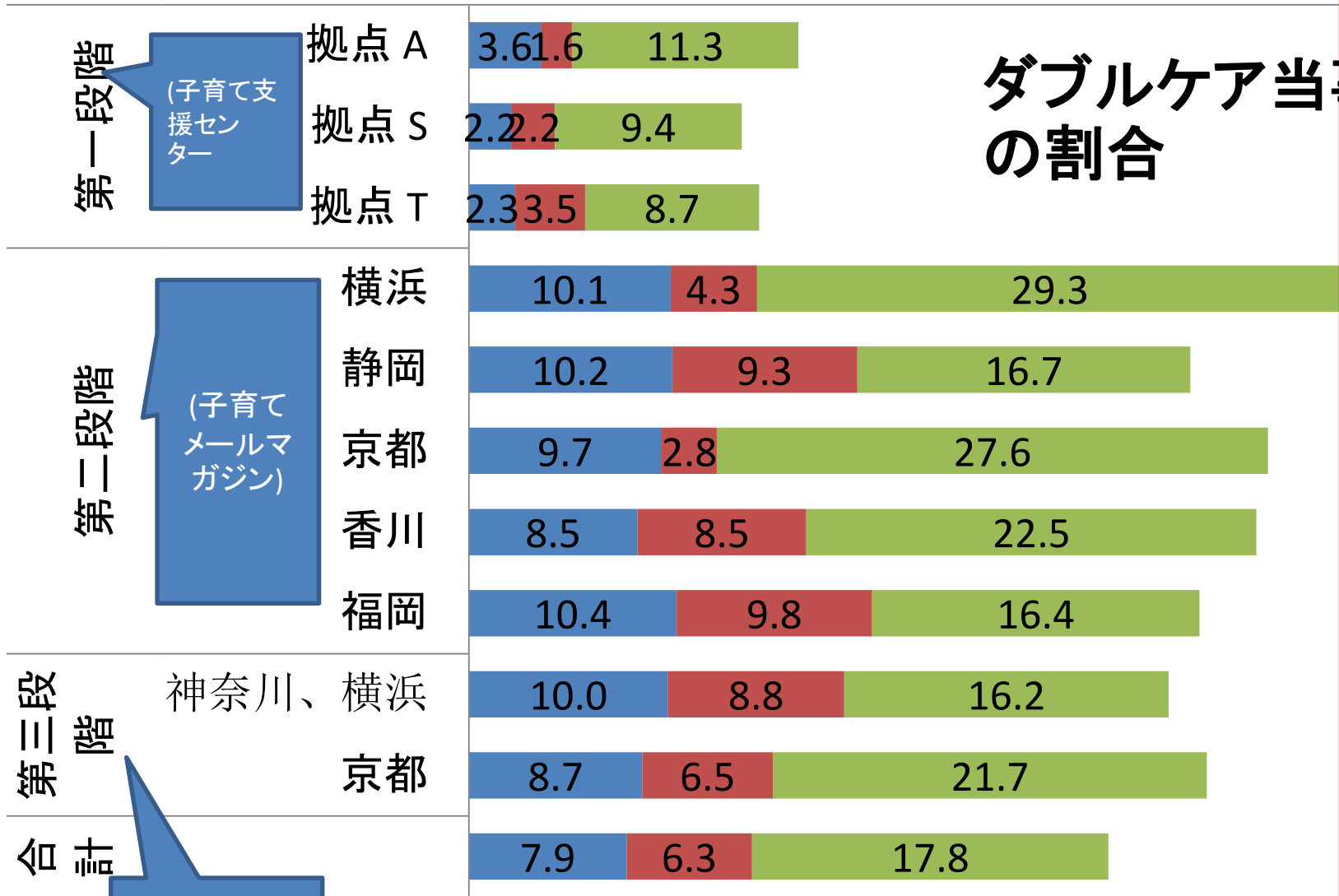
定性調査

- 対面および電話調査
- 32ケース

日本国内調査から

0 10 20 30 40 50

ダブルケア当事者の割合



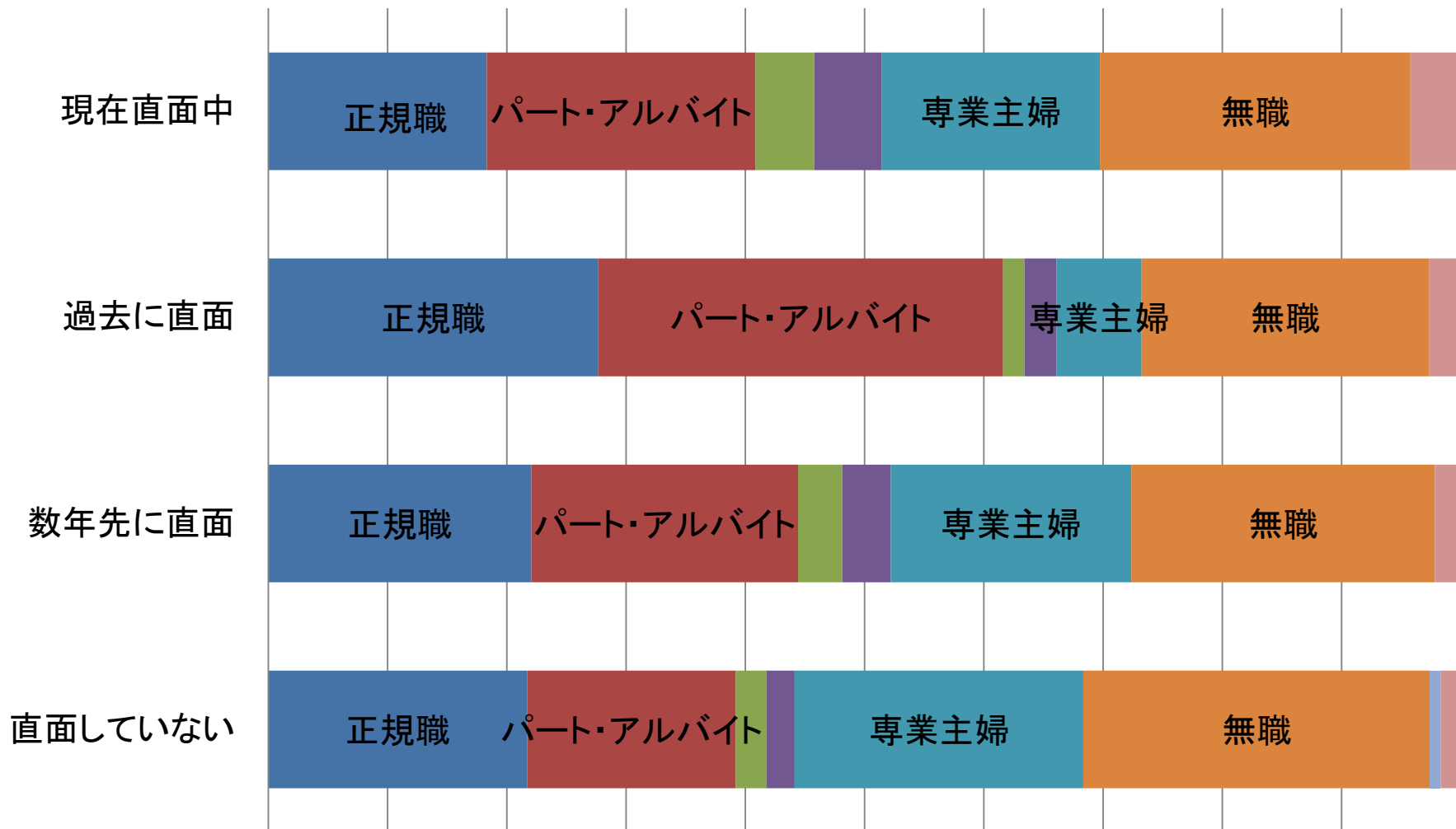
■ 現在直面中 ■ 過去に直面 ■ 数年先に直面

回答者と子供の年齢(日本)

	回答者	第1子
(A) 現在ダブルケア :	41.13	7.74
(B) 今後ダブルケア :	42.75	10.36
(C) 近い将来ダブルケア :	39.61	5.56
(D) ダブルケアに直面していない :	37.58	4.34

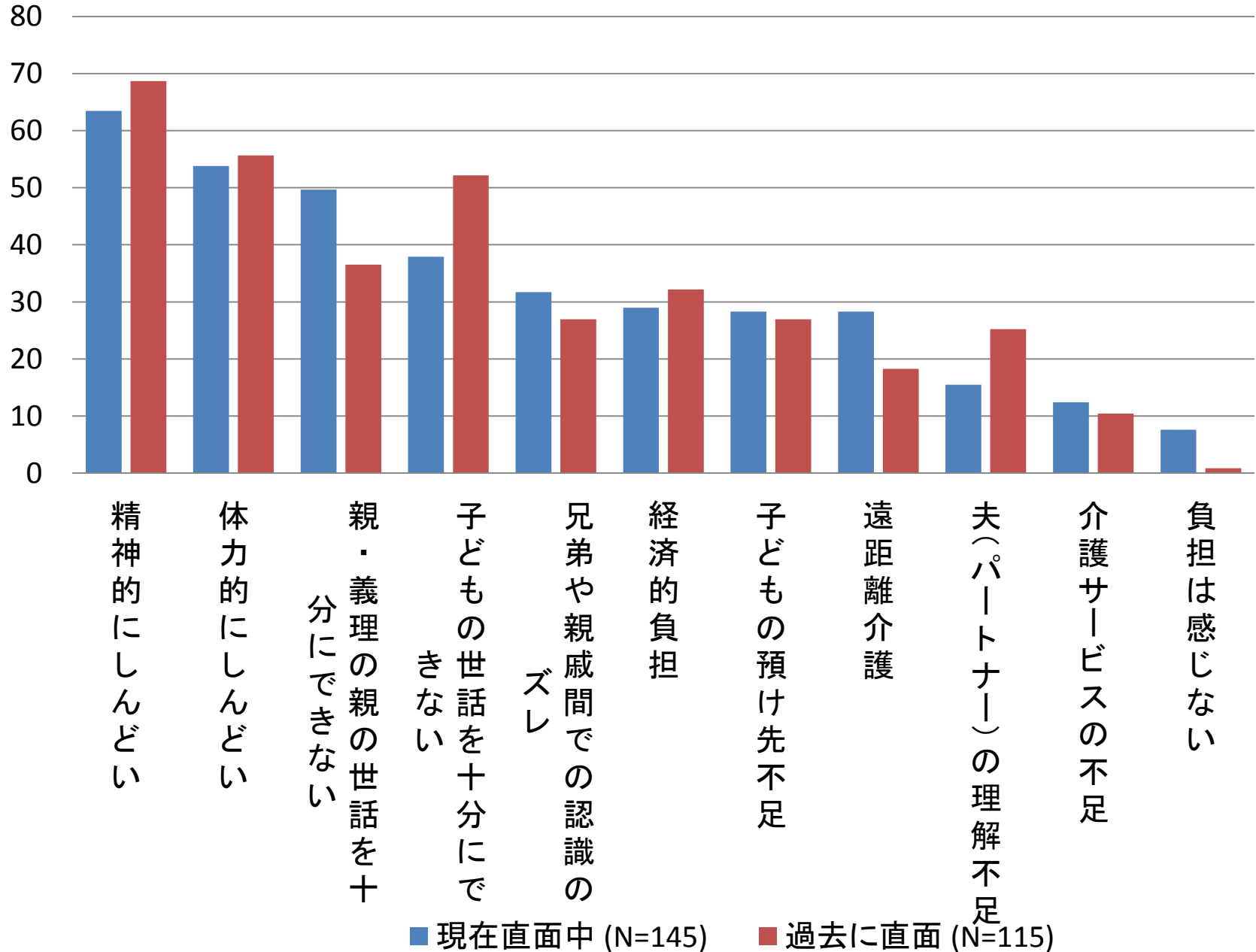
回答者の就業状況(日本)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 正規職 ■ パート・アルバイト ■ 派遣 ■ 自営業 ■ 専業主婦 ■ 無職 ■ 内職 ■ その他

複合的な負担感(日本)



誰がダブルケアをするのを支えてくれましたか？

	現在直面中 (N=145)	過去に直面 (N=115)
夫	57.24	48.70
友人	22.76	26.96
ケアマネージャー	19.31	16.52
親戚	17.24	18.26
ホームヘルパー	13.10	13.04
誰も助けてくれなかった	<u>12.41</u>	<u>16.52</u>
保育士	10.34	7.83
地域包括支援の職員	6.90	5.22
幼稚園の先生	6.21	6.06
親、義理の親	5.52	5.22
子育て支援センターの職員	2.76	2.61

定性調査質問内容

- 介護に携わるまでの経緯
- 介護の内容
- 介護サービス、子育てサービスの利用状況
- 親子関係、夫婦関係
- ダブルケアで困難なこと・積極的なこと
- 子育て、介護の優先順位に関して
- 不足しているサービス

ケース紹介：YDさん

同居／専業主婦／一人っ子／5歳・3歳

ダブルケアの状況

実の母親が糖尿病で視力がほとんどなく、車いす生活。子どもは幼稚園児2名。夫は警察消防関係で不在がち。1週間ダブルケアで埋まる。

負担・ストレス程度きわめて高い。憔悴しきっている。経済的負担も高い。幼稚園教諭だったことから子育ても熱心。母親と子供をつれての外出が大変で家にいることが多い。

ケース紹介：YBさん

近居／専業主婦／姉／6歳・2歳

ダブルケア状況

脳梗塞で倒れた後、半身麻痺軽い認知症のある父親を毎日のように様子を見に訪ね、日常生活を支える。母親が主たる介護者だが、パート勤務と頼っていた父親が要介護になったことで動揺や不満があり、Cさんが愚痴の聞き手。父との関係が特に良好だった。

ケース紹介：YBさん

負担・ストレス度かなり高い。次男がいなくなれば、楽になるとの思い。一時保育等利用しようとしたができず。子育てするために専業主婦になったが、次男がいるために父親の介護が十分にできないと感じている。長男が一時不登校になり、精神的な支えを必要としていたが、父親の介護を続けなくてはならなかった。2歳の次男の子育てが負担。知人、友人に親の介護のことを話せず、孤独感。夫にはあまり頼めない。

ケース紹介:KAさん

遠距離／パート勤務／兄／9歳、6歳、3歳

ダブルケアの状況

父親脳梗塞の後遺症で、失語症、身体不自由。要介護度4。施設入所を勧められているが、在宅ですごしたいという父親の意思を尊重。退院後は週に2回通ったが、毎日何らかのサービスを受ける体制が調ったのと、経済的な負担(ガソリン代等)で現在は控えている。ケアマネさんや郵便局の人から、父親の様子を聞く(失語症のため電話が使えない)

ケース紹介：KAさん

もっと父親を支えたいが、経済的に困難。ガソリン代がない。3つのパートを掛けもちしている。今後の父親の財政が不安で、貯金をしなくてはいけないが、夫も家にあまりお金をいれないので、仕事をいくらしても貯金がむずかしい。子供に手をもっとかけてやりたい。父親と同居も考えたが、田舎のため仕事がなく無理。時間とお金の余裕がほしい。夫介護・子育てに全く関与なし。離婚を検討中。義理の両親が子育てを助けてくれている。

多様なダブルケアの実態

ダブルケアの実態を把握する軸として以下の軸が重要

- 介護育児の程度
- 同居・非同居
- 一人娘かどうか
- 就業形態
- 親子関係、夫婦関係
- 経済的状况

他に重要な軸は？

分析

複合的な負担

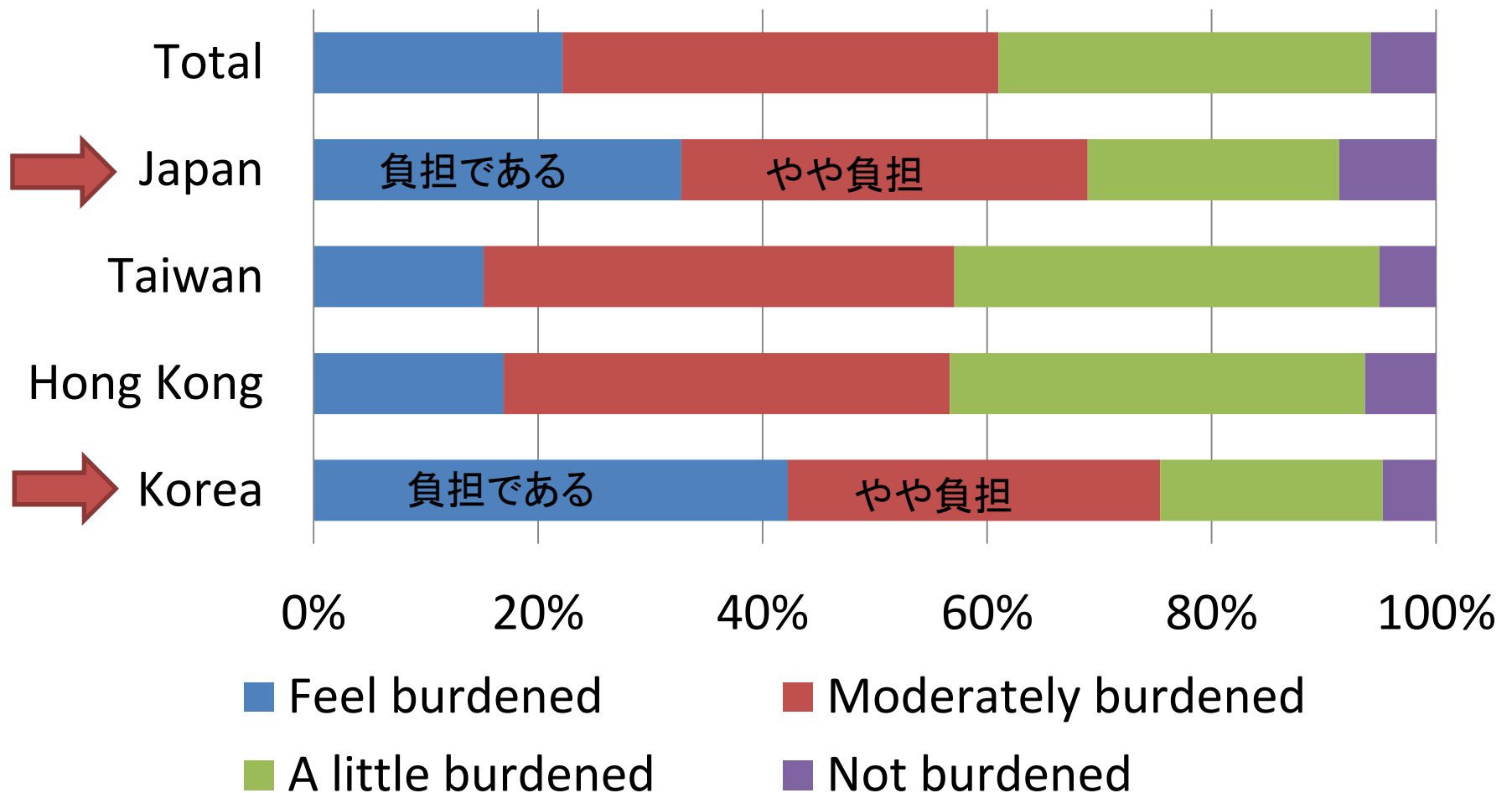
$$\begin{array}{ccccccc} \mathbf{1} & + & \mathbf{1} & + & \mathbf{1} & \neq & \mathbf{3} \rightarrow & \mathbf{1} & + & \mathbf{1} & + & \mathbf{1} & \gg & \mathbf{3} \\ \text{介護} & & \text{子育て} & & \text{仕事} & & & \text{介護} & & \text{子育て} & & \text{仕事} & & \text{複合的} \\ & & & & & & & & & & & & & \text{負担} \end{array}$$

負担感に影響する要因(比較調査から)

- 親・義理の親の年齢
- 親との関係
- 夫との関係
- 財政状況
- 介護および子育てサービスの利用状況

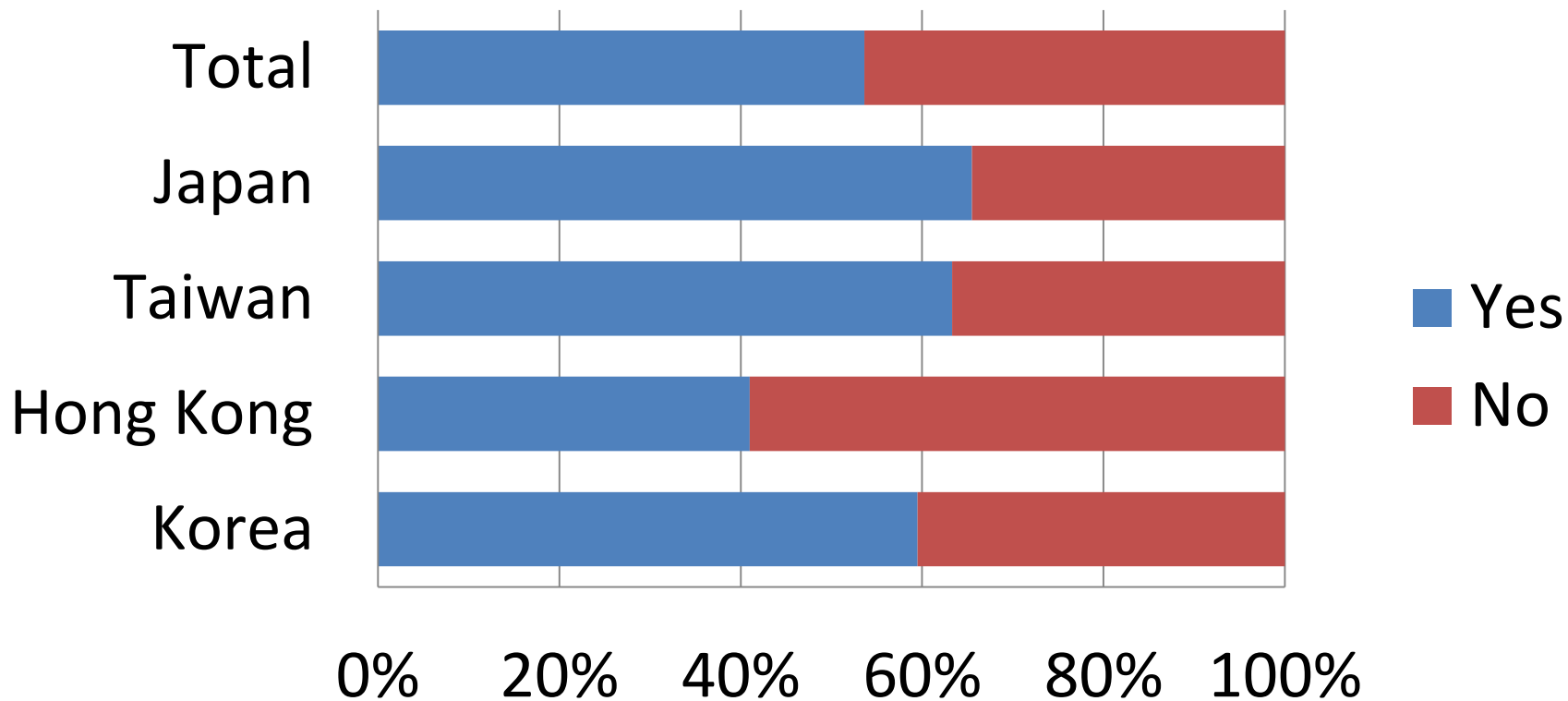
東アジア比較調査から

負担感の東アジア比較から見えてきた 日韓の負担感の高さ



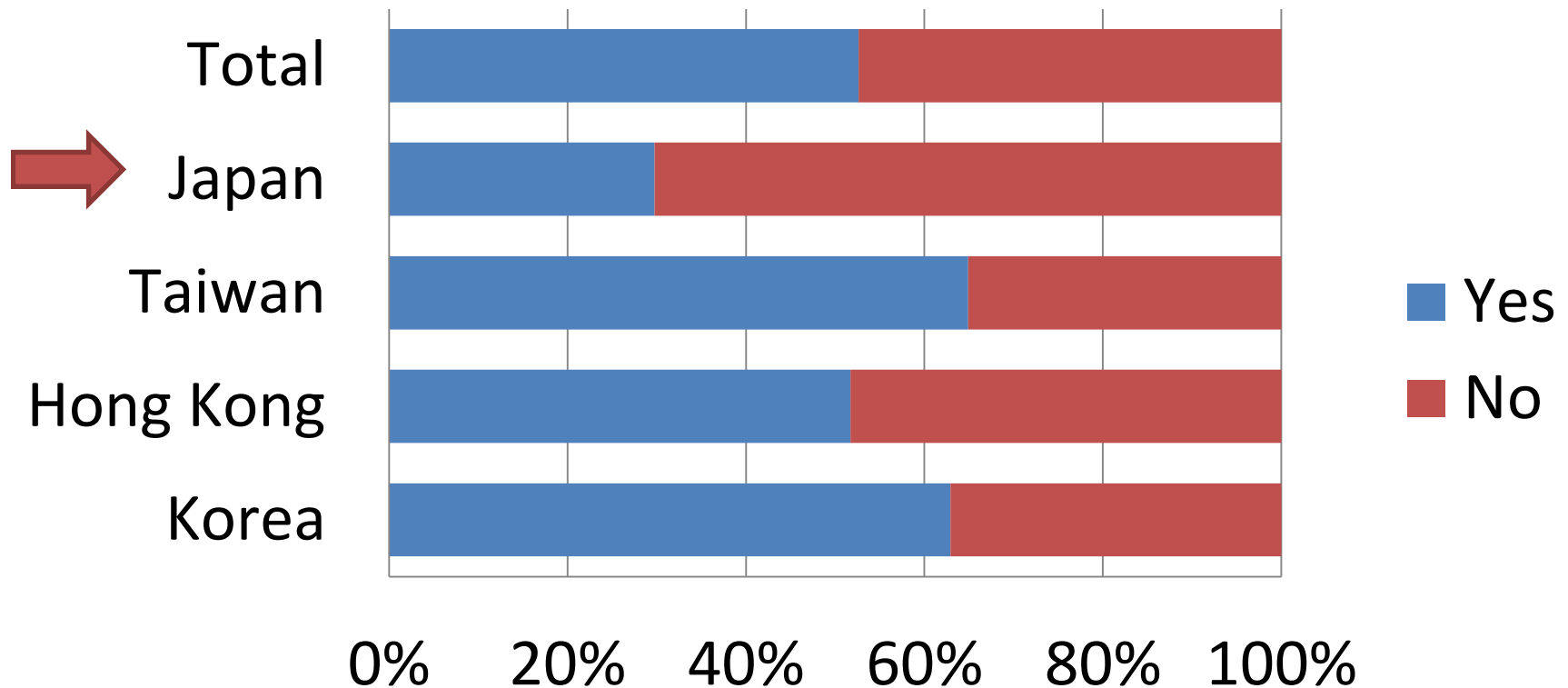
精神的・身体的負担感

精神的負担

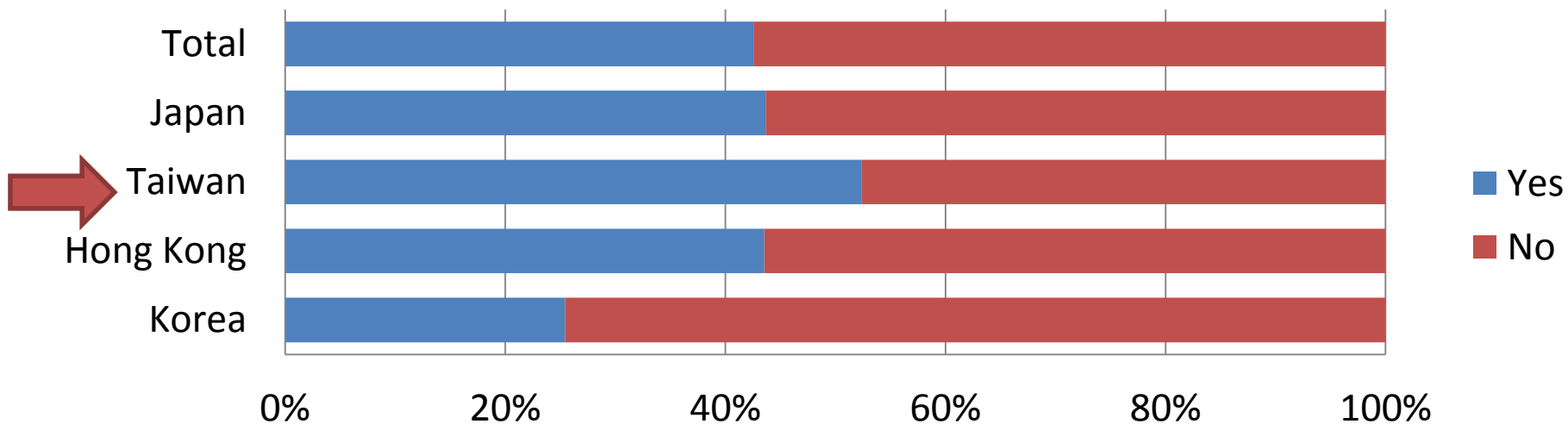


介護保険制度のある日本では、 経済的負担感は低い傾向

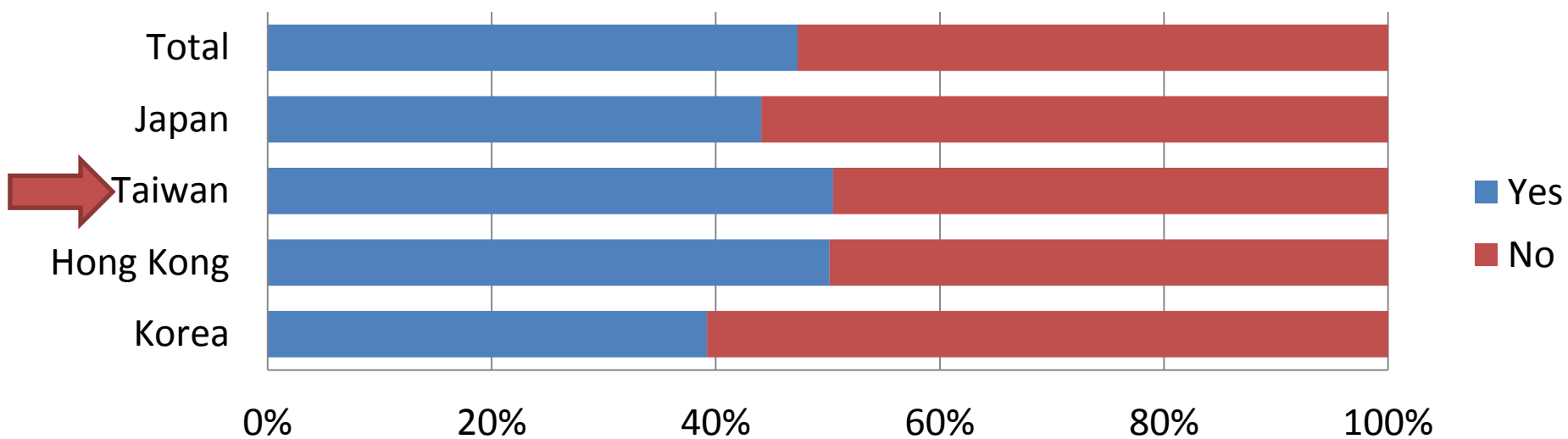
財政的負担



両親・義理の両親の世話を十分にできない



子育てを十分にできない



負担感：年齢・親／義理親の健康状況

- 日本では、介護度が高い人は施設にいる傾向にあり、要介護度は負担感と相関しない
- 香港では、親／義理親の健康状況は負担感に関連している

負担感：親／義理親との関係

- 日本では、主な介護者である母親を支えながら父親の介護をしているケースで、より高いストレスを感じている(親の夫婦関係の調整)
- 香港では、親・義理親との関係が良好と認識している人のほうが負担感が強い(-.119&-.121, p.<0.1)
- 韓国では、まだ兄妹数が多く、同居している子が介護をし、ほかの兄妹が財政的負担と主たる介護者をサポートする役目をする傾向にあり、家族の中のコンフリクトが高い
- 韓国では、親の経済状況が負担感に関連する。

負担感：夫との関係

- 韓国と日本において、夫との良好な関係はダブルケアの負担感を軽減する。韓国では、夫が実際に家事を分担していることへの評価があがるが、日本では夫の「理解」が負担感に違いを生じさせる
- 夫の無理解が、一番日本で精神的負担として挙げられる。
 - 娘介護＞嫁介護

負担感：世帯の財政

- 韓国の世帯は、財政的困難を抱える傾向にある。
現在の高齢者の年金レベルの低さ＋介護保険制度の低い適用率＋利用者負担
- 香港では、低所得世帯の間でダブルケアの負担感が強い傾向がある。
- 日本では、経済的負担感は地方で強く、都市では子育てサービスの不足が、ダブルケアでの困難の主な原因となっている。

負担感：介護サービスの利用

日本

介護

介護保険導入後、比較的高い認定率(17.46%)、包括的なサービス内容、政府の財政的負担率も他の東アジア諸国より高い

子育て

子育てサービス供給団体への規制緩和と準市場化による民営化の拡大(1990年代以降)。子育てサービス不足は都市で深刻化、地方では幼稚園が定員不足。

負担感：介護サービスの利用

韓国

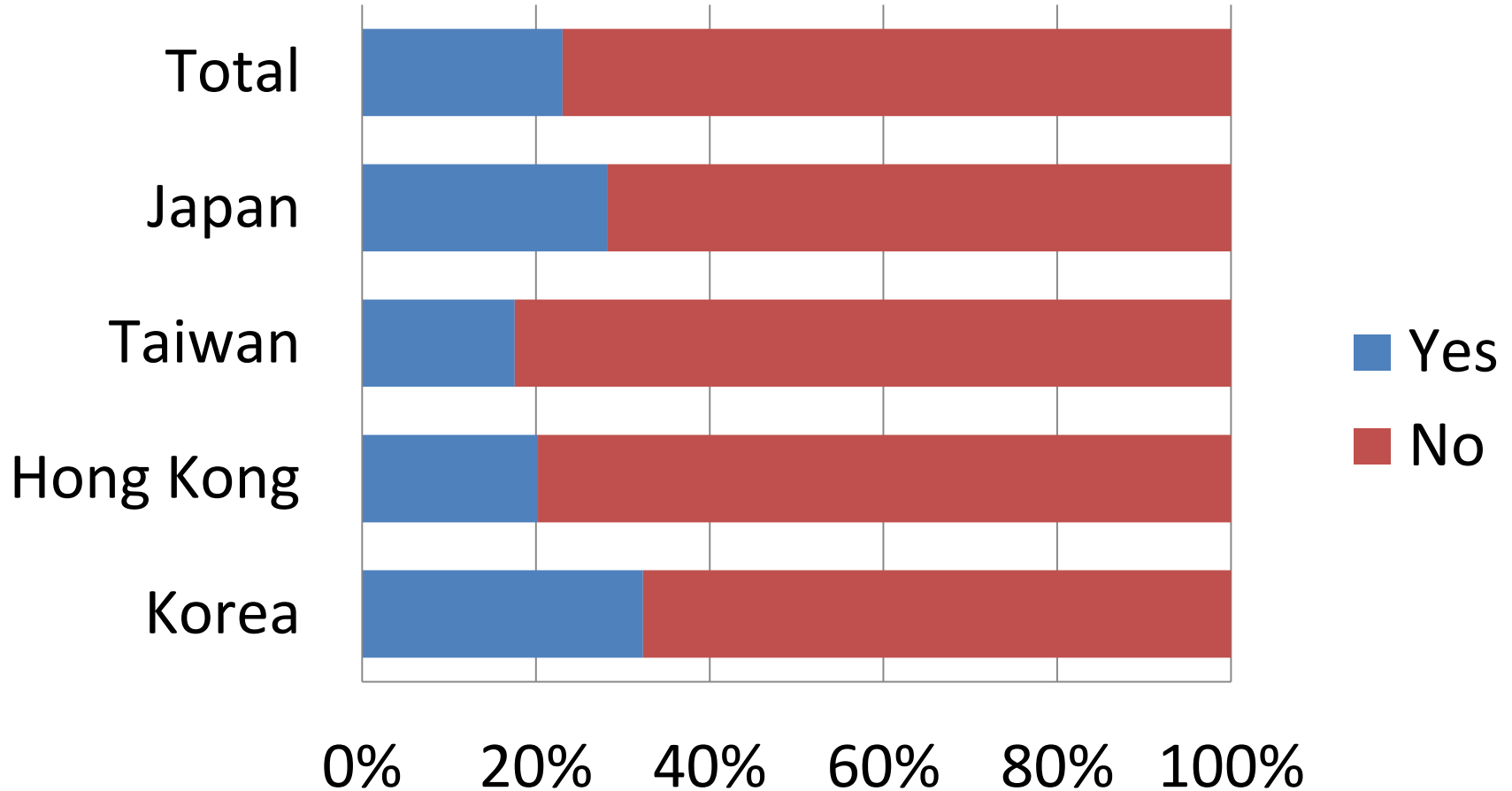
介護

介護保険施行(2008年)、比較的低い認定率(2014年5月末時点で65歳以上の6.2%)

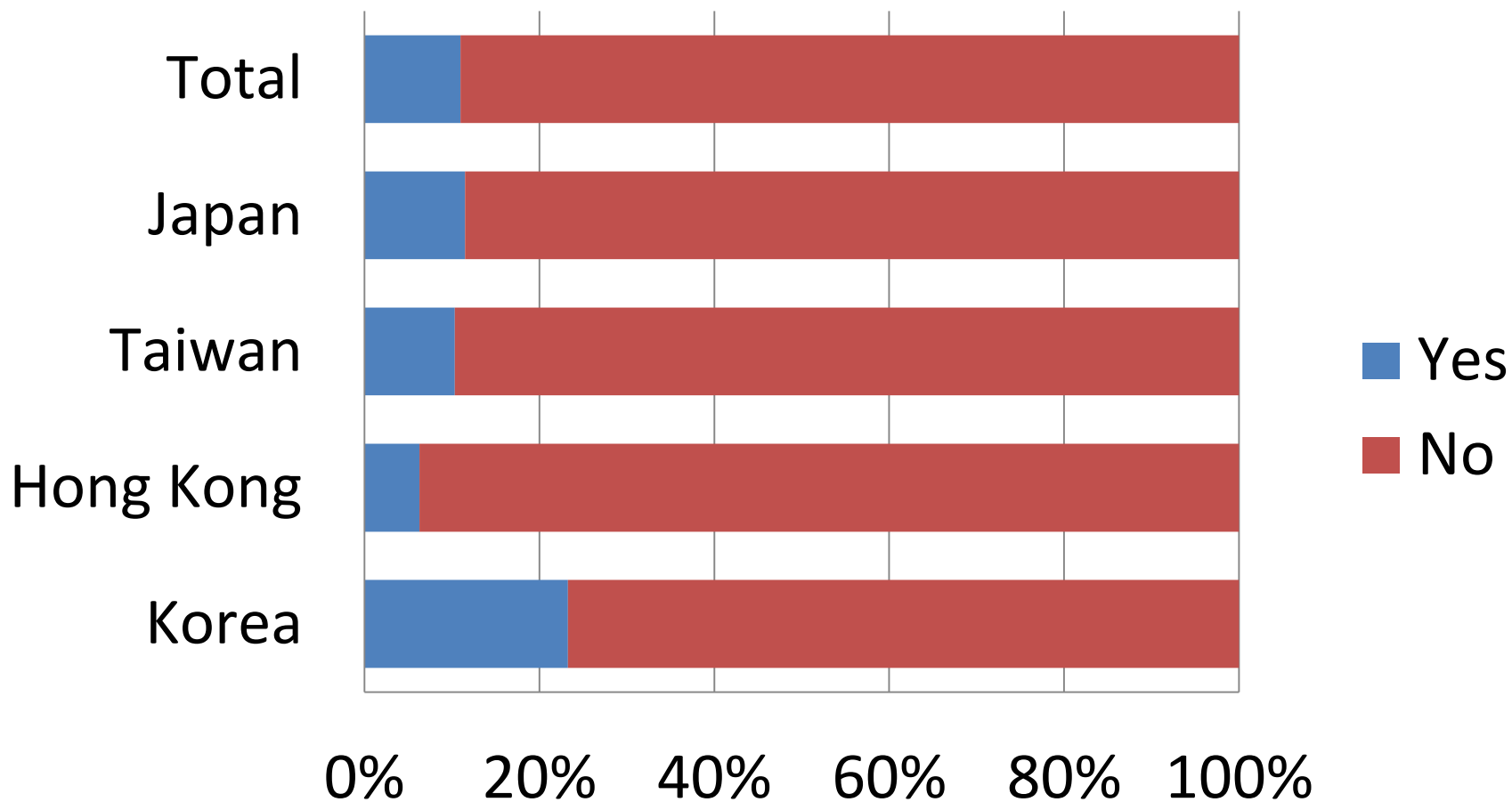
子育て

2002年の出生率(1.02)ショックから急速に拡大。政府の財政的負担率があがる。2013年から6歳以下の子供がいる全ての家族は保育サービス補助か子育て支援金を至急

日韓で、子育てサービスの不足感が高い



介護で見ると、 韓国で介護サービス不足感が高い。



議論

日本

- 介護保険の施行によって、新たな介護責任が加わった。

＝ケアマネージメント

- 介護保険制度は遠距離にすむ子供が介護に関わることを可能にした。
- 介護保険制度枠外の介護をし、それを負担と感じている←商品化されない／できない介護の部分
 - ケアマネージメント、決断、精神的なサポート、子育てと介護の異なるニーズを同時に満たすこと。

議論

比較

- ダブルケアの負担は複合的
- 介護より子育ての負担感への関心が高い傾向？
- 家族関係がインフォーマルケアを支えているが、リスクにもなる

議論

- 社会政策研究と政策過程において、介護と子育てをひとつの単位として考える必要性
- 統計的データの収集、政策的課題の明確化
- 母親、妻、就業者としてのみでなく、娘・嫁役割の重層的な交渉過程と影響を、フェミニスト社会政策の対象にすることが重要。

議論

- 介護と子育て横断的な社会サービスの構築
- ケア関係を全体的に把握し対応できる専門家の必要性？
- ダブルケアラー支援

- Grundy, E. and Henretta, J.C. (2006) “Between Elderly Parents and Adult Children: A New Look at the Intergenerational Care Provided by the ‘Sandwich Generation’”, *Ageing and Society*, 26, 707-722
- Kunemund, H (2006) “Changing Welfare States and the ‘Sandwich Generation’: Increasing Burden for the Next Generation?”, *International Journal of Ageing and Later life* 1 (2) 11-30.
- Spillman, B and Pezzin, L.E. (2000) “Potential and Active Family Caregivers: Changing Networks and the ‘Sandwich Generation’”, *The Milbank Quarterly*, 78 (3), 347-373